

平成26年度学校評価シート

兵庫県立村岡高等学校

1 学校教育目標

○地域に学び、地域と協働し、地域になくてはならない高等学校をつくる。  
○確かな基礎知識・技能を持ち、自分で考え、チームの中で提案し、議論し、行動できる生徒を育てる。

2 重点目標

I 地域に学び地域と協働する教育活動を組織的に整備し推進する。  
II 確かな基礎知識・技能を持ち、自分で考え、チームの中で提案し、議論し、行動できる生徒を育てる。  
III 地域に学び地域と協働する生徒を育てる高等学校の教職員としての使命感と高い倫理観を保ち、豊かな人間性に基づいた教育を実践する。

4 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

・今年度の学校評価にの評価項目については昨年度より項目が具体的にわかりやすくなった。  
・この学校評価の他に、各教科の重点目標も明確に示され課題解決へ前進している。  
・昨年度からの生徒、保護者、教員の三者を対象とした「学校アンケート」を実施し、両方を合わせて年度比較ができ同じ生徒、保護者の変化が確認できることにより、総合的な学校評価として充実している。

5 総合的な学校関係者評価

・地域との連携を行う中で、生徒が調査、企画、提言、そして全校生で実行する取り組みは全国でも珍しく、高い評価を得ている。その取り組みを活かしてさらに魅力ある高校づくりを充実させていきたい。  
・アウトドアスポーツ類型の教育活動の充実をはかり、さらに特色ある高校づくりに取り組んでもらいたい。

3 学校自己評価結果【 A (4)…よくできた B (3)…できた C (2)…あまりできなかった D (1)…できなかった 】

分野	今年度評価項目	評価	A	B	C	D	今年度評価内容	分野（評価項目）ごとの学校関係者評価
I 地域に学び地域と協働する教育活動を組織的に整備し推進	①総務部	PTAとの連携を強化し、企画力や自ら考える力を身に付けるため、地域の活動を自主的に参加して地域活性化に取り組む。	3.5	8	7		生徒に力を付けるための活動にも多く参加できた。PTAとの連携も昨年以上に良くできた。	・地域との連携における生徒の活動は、非常にはつらつとして高校生が地域を元気に盛り上げている姿は地域住民にとっても頼もしく感じている。一般の参加者からも高い評価をいただいている。高校生が、調査、企画、提言、実行と学習の成果として成功させている点はもっと高く評価できる。  ・地域創造類型は4年目を迎え一定の成果が上がっている。今後は、今年度からスタートした、アウトドアスポーツ類型の充実、発展に向けて頑張っていたきたい。
		課題等を見発する能力を養うため、インスパイア事業、ふるさと貢献事業の諸活動に参加し、成果を発表する。	3.7	11	3	1	ふるさと貢献活動やインスパイアハイスクール事業を活発に展開し、生徒は中心となって活動したことを発信した。	
	②教務部	「地域協働活動」・「総合的な学習の時間」を用いて、地域の大切さを学び、地域に貢献するところを育む。	3.9	13	2		次年度も継続して取り組みたい。	
		「地域学入門」で地域の資料を用いて、スポーツ教育を充実させるカリキュラムの編成を行う。	3.2	6	6	3	カリキュラムの立案がうまく行かないことが多かった。	
		「地域探求Ⅱ、Ⅲ」の成果物を通して、地域への提言を行う。	3.9	13	2		教育コーディネーターの努力により全体が上手く動けた。	
	③生徒指導部	香美町教育委員会が提唱するあいさつ運動を生徒会を中心に積極的に取り組む。	3.7	11	4		年間を通じ小中学校と連携し、町民への挨拶運動に取り組めた。生徒会の提案で朝の立番を開始。のぼりを作製し、全校生徒の挨拶運動を盛り上げた。	
	⑤保健部	疾病予防、また早期発見に向けて学年、家庭との連携に取り組む。	3.1	4	8	3	現在、予防に関することで家庭との連携となると保健だよりぐらいなので、他の方法も検討する。	
⑥1年	「総合的な学習の時間」や「地域協働活動」で生徒一人一人に役割を与え、責任感を持たせやり遂げさせる。	3.5	10	3	2	様々な取り組みにおいても積極的に活動し、責任感をもって最後までやり遂げていた。		
⑦2年	村高発元気プロジェクト「総合的な学習の時間」を通して、地域を知り、地域と連携をはかり、地域へ貢献する生徒を育てる。	3.5	9	5	1	早期に3年生が抜け、チームのリーダーとして活動するよう促すことができた。		
II 確かな基礎知識・技能を持ち、自分で考え、チームの中で提案し、議論し、行動できる生徒の育成	①総務部	「総合的な学習の時間」で経験したことをまとめ、課題等を発表できる能力を養う。	3.7	10	5		村高フォーラム・総合的な学習の時間の発表会や様々な地域での発表や討論会へ積極的に参加し発表できた。	・村岡高校の取り組みは様々な場所で発表されている。特に村高フォーラム2014では生徒が取り組んでいる村岡高校の特色や魅力ある活動の発表を聞いて内容や生徒の意欲は非常に高く感じた。村岡高校の取り組みは全国でも高い評価を受けていることも理解できた。その取り組みをさらに全国へ発信して、アウトドアスポーツ類型の生徒募集及び充実に繋いでいただきたい。  ・目的意識をどの様に早期に確立させるかで生徒の学習活動の取り組みが変化する。進路指導の充実を図り生徒に興味、関心を持たせ家庭学習に取り組む姿勢を養っていたきたい。  ・家庭学習については、小、中、高との共通課題であり連携が必要。小学校とも今年度は家庭学習についても連携を進められてることをさらに充実させていただきたい。  ・基本的な生活習慣や健康に関する課題については、家庭との連携を図って推進することが大切である。  ・情報モラルや携帯電話について専門家による講演会や講義で指導されているが、保護者にも協力いただいて、生徒の社会性を育てる必要がある。  ・「あいさつ」については地域のあいさつ運動の推進役として頑張っている効果が学校全体に広がり、元気に爽やかに挨拶ができるようになった。
	②教務部	「総合的な学習の時間」等を通し、自分たちの活動をアピールしたり、考え、話し合ったことを発表する場を設ける。	3.8	12	3		目標はほぼできたともうが、内容の幅を広げたい。	
	③生徒指導部	習熟度別や少人数学習により、基礎学力の育成に努め、ガイダンスを持ち、適切な指導を行う。	3.2	5	8	2	ガイダンスを持つことができなかった。次年度への目標とした。	
		村高祭等の学校行事を通して、自主性・自発性を培い、存在感や成就感を体得する指導を進める。	3.6	9	6		リーダー研修会を実施し班別討議の方法を学び、村高祭では自発的に行動・協力するよう取り組めた。	
		地域行事・福祉体験活動への参加を通じて、地域における集団の一員としての自覚を高め、社会人としての実践力を高める。	3.5	8	7		多くの地域行事に参加し、地域住民と共に行事をやり遂げることで社会人として実践力を高めることができた。また、地域における高校生の自己有用感を高めることができた。	
		携帯電話のマナー指導及び携帯電話・インターネットに潜む危険性を周知徹底する。	3.1	4	8	3	4月、1月、3月に専門家による情報モラルについての講演等を行った。4月、7月、12月に携帯電話使用方法について文章を配布。SNS使用の指導はこれからも注意して行う。	
	④進路指導部	進路情報を的確に把握し、データを蓄積し進路指導に役立てる。	3.5	8	7		進路検討会ではオンライン情報も見ながら検索した。	
		3年間を見通した進路指導を検討し、指導計画を作成する。	3.6	9	6		2020年度入試に向けては未知数のままである。	
		予防と治療の大切さなど、疾病に対する正しい知識を身に付けさせる。	3.1	4	9	2	保健だより等で細かく伝えているが他の方法も考えたい。	
	⑤保健部	生命の尊重と安全について考え、危機管理能力を高めるため、AED及び救急法講習会を実施する。	3.4	7	7	1	AED講習会、保健講演会などを行い自他共に大切な命について考える機会をつくっている。今後は内容の検討も行う。	
		教育環境の整備をはかるため、生徒・職員による清掃美化活動を推進、徹底させる。	3.1	4	9	2	人手が足りない部分もあるが、細かな指導も必要である。美化清掃活動においては今後の課題としたい。	
	⑥1年	規律の遵守や基本的な生活習慣を身に付けさせる。身だしなみを整え、元気の良いあいさつができる生徒を育てる。	3.2	4	10	1	服装や髪型については、だらしない服装をしている者の指導を今後の課題とした。	
基礎学力の定着を図り、自ら学び考える力を育てるため、課題の提出や自学自習の習慣を身に付けさせる。		3.1	5	6	4	教科担任制では提出の有無が担任では分かりづらく、指導が行き届かない生徒が多く見られた。生徒の多様化に合わせて学年でシステムを構築する必要がある。		
⑦2年	家庭学習の習慣を定着させ、自ら学び自ら考える力を育てるため、課題の提出とそのチェックを行い基礎学力の充実に取り組む。	3.1	4	8	3	進路別に長期休業中に課題を出した。		
	学習意欲と学力を向上させ、進路実現の意識を高める。学習不振者・進学希望者の補習を行う。	3.1	4	9	2	長期休業中に課題を出すことで学習習慣の継続を図った。進学希望者に対しては、教科担任に依頼し補習を実施した。		
⑧3年	国公立大学合格者を昨年並みに出す。	3.7	11	4		7名合格(3月15日現在)		
	面談を重ね、自ら進路を考え選択させる。	3.7	10	5		1名未定のままなので悔やまれる。		
III 地域に学び地域と協働する生徒を育てる高等学校の教職員としての使命感と高い倫理観を保ち、豊かな人間性に基づいた教育の実践	②教務部	「総合的な学習の時間」に、職員全員で取り組み、地域へ理解と連帯を深める。	3.6	9	6		全職員での取り組みはできた。地域との協働は足りないと思う。	・今の高校生は多様で精神的に幼い生徒が多い中、生徒への手厚いフォローは村岡高校の特徴でもある。個人面談を中心に、今後は外部の機関とも連携してさらなる充実を図り、将来の進路へ向けても支援をお願いしたい。  ・学校教育全体の中で、生徒に社会性を身につけさせることはもちろんだが、地域との協働活動や地域との連携等のあらゆる機会を捉えて育んでいただきたい。
	③生徒指導部	生命と人権を尊ぶ精神を生徒指導の基本とし、対話を重視した生徒指導を進める。	3.7	11	4		今後も対話を重視し、個別の生徒に沿った指導を実施する。	
		生徒理解を深めるため、学級担任を中心に個人面談を定期的・計画的に行う。	3.5	9	4	2	生徒個別の情報をつかみ、臨機応変に職員全体でサポートしていく。	
		いじめや問題行動の早期発見に努めるため、生活実態調査を年2回以上実施する。	3.7	10	5		携帯電話についての調査も合わせて実施。	
	④進路指導部	「進路の手引き」を使って各学年に進路意識を高める指導として、HRにおいて進路指導部による説明会を実施する。	3.4	6	9		1年2回、2年2回、見方については浸透したのではないだろうか。	
	⑤保健部	保健便り等による情報の発信、検診の勧めの通知など適切な保健指導を行う。	3.5	7	8		定期的に保健だよりも出し、検診指導も丁寧に行った。	
	⑥1年	他人への思いやりを育て、お互いを認め助け合える人間関係を育てるためHRを工夫する。	3.3	5	9	1	LHRでは生徒同士の話し合いの機会を多く設け、人権やモラルについては考える時間を多く取った。	
	⑦2年	他人を思いやり、助け合える人間関係を育てるため、学校生活、学習活動の中で、生徒と教師、生徒同士の交流の機会を増やす。	3.3	7	6	2	生徒への声かけを大切に。また、部活動の顧問や教科担任との情報交換をするように務めた。	
⑧3年	地域創造類型での学びを生かした、地域学系分野の進学を増やす。	3.5	9	5	1	今年度は、鳥取大学地域学部、埼玉大学教育学部、都留文科大学文学部へ合格した。		